

カーボンニュートラル社会の実現

2050年カーボンニュートラル実現に向けた グランドデザイン策定

- 住友化学グループ^{※1}として、2050年のカーボンニュートラル実現を目指し、2030年までに温室効果ガス(GHG)排出量を2013年度比で50%削減する方針を策定しました。GHG排出量の削減において、自社排出削減の「責務」と製品・技術を通じた世界への「貢献」の両面から取り組みを加速します。

▶ カーボンニュートラル実現に向けたグランドデザイン 

▶ 「責務」に対する具体的な取り組み 

▶ 「貢献」に対する具体的な取り組み 

Sumika Sustainable Solutions®(SSS) 推進

- 地球温暖化対策や環境負荷低減に貢献する製品・技術を認定する「Sumika Sustainable Solutions®(SSS)」を推進しており、これまでに認定された製品・技術の売上総額は5,556億円(2025年度連結)です。また、SSS認定製品・技術の活用により、2025年度にはGHG削減量が「技術」で290万トン-CO₂e、「最終製品」で420万トン、合計710万トンに達しました。

主なSSS認定製品・技術

▶ <https://www.sumitomo-chem.co.jp/sustainability/management/promotion/sss/products/> 

プラスチック資源循環の実現とプラスチック廃棄物の問題解決

プラスチックのマテリアルリサイクル・ ケミカルリサイクルの社会実装

- 製造プロセスに使用するプラスチック再生資源の量をKPIとして設定し、2030年までに年間20万トンを目指します。
- プラスチックをはじめとする炭素資源の循環を実現するため、プラスチックバリューチェーンの各段階において、3R(リデュース、リユース、リサイクル)に取り組んでいます。一部の技術についてはグリーンイノベーション基金事業^{※2}に採択され、技術開発を加速させています。

社会貢献活動の実施

- 2020年度以降、全役職員を対象に資源循環に関する教育・啓発活動を継続しています。また、事業所周辺地域や近隣河川・海岸の清掃活動にも取り組んでおり、2025年度は延べ60回にわたり実施しました。
- 一部の事業所では、従業員による自主的な日常のゴミ拾い活動をチーム対抗で競い表彰するなどの工夫により、清掃活動の一層の定着を推進しています。

アライアンスへの参画

- Japan Clean Ocean Material Alliance(CLOMA)の活動への協力など、個社では対応が難しい広範な社会課題への対応にも取り組んでいます。

▶ イニシアティブへの参画 

化学物質管理とリスクコミュニケーション

製品の安全性再評価、リスク評価の実施

- 安全性要約書を公開しており、順次改訂を実施しています。2026年1月時点で70の化学物質について公開しています。
(https://www.jcia-bigdr.jp/jcia-bigdr/material/icca_material_list)

「LRI^{※3}」への取り組み

- (一社)日本化学工業協会のLRI研究事業に、運営委員会の委員および研究戦略企画部会のメンバーとして積極的に参画し、研究推進を図りました。

情報公開およびコミュニケーションの充実

- ウェブサイト、住友化学レポート、サステナビリティレポート、環境・安全レポート(全工場)、地域広報紙などの発行、出前授業、インターンシップ、周辺地域の方々との対話などを実施しました。

※1 当社および国内外の連結子会社を対象

※2 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、経済産業省がNEDOに2兆円の基金を造成し、野心的な目標にコミットする企業などに対して、10年間にわたり、研究開発・実証から社会実装までを継続して支援する事業

※3 LRI(Long-range Research Initiative): 化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究の長期的支援活動